

まさのや(宮崎県日之影町)

(構成：日之影町、日之影町社会福祉協議会)
《活動主体の概要》(平成26年10月1日現在)

総人口：4,071人

高齢者数：1,716人

世帯数：1,556世帯

産業構造：就業人口を産業別に見ると

1次産業が約35.6% 2次産業が約22.0%

3次産業が約49.9%(H22.10.1現在)

地理的構造：宮崎県の北部に位置し、大分県に隣接 面積は277.68km²



活動のきっかけ

日之影町では、一人暮らし高齢者や認知症高齢者の増加により日中見守りが必要な方への支援や、買い物代行、ゴミ出し等日常生活上での困りごとへの対応などが課題となっている。

そのため、介護保険等の公的なサービスのみに頼らない、地域住民相互の助け合いと地域の資源を活用したインフォーマルサービスの開発が不可欠となっている。

このことから、日之影町の中心部にある空き民家を活用し、地域住民の日中の居場所(憩いのサロン)として活用したり、世代間交流や障がい者の活動の場、また、ボランティアグループによる電話での見守り活動の拠点として、憩いの家「まさのや」を開設した。

活動方法

憩いの家「まさのや」は、月曜～金曜の9時30分から15時30分まで開所しており、地区のボランティア団体や有償ボランティアの方が関わり、地域住民が主体性を持った運営をしている。

「まさのや」では、ミニデイサービスを行い、日中見守りの必要な高齢者を対象にした介護予防、認知症予防に取り組んだり、地区の高齢者が気軽に集い語れる場としてサロン活動を行うなど、地域住民が気軽に集うことができる拠点となっている。

また、町の無料回線電話を活用して、ボランティアの方が定期的に一人暮らし高齢者に電話をして安否確認を行う「見守りコールセンター」の活動拠点にもなっている。

さらに、子育てと世代間交流の場、障害者施設の野菜無人販売所、ボランティア集会所や陶芸教室など、地域福祉活動の拠点としても活用されている。



工夫点

日之影町社会福祉協議会(以下、「社協」という。)では、平成24年度から宮崎県の指定を受けて介護職員初任者研修を自主開講し、地域住民に受講していただくことで、福祉への関心を高め、地域における福祉人材の確保に努めている。修了者は、社協の福祉人材バンクへ登録していただ

き、地域の中で活動する場を斡旋する仕組みを作っている。

また、定期的に関係機関等の連絡会議を開催するとともに、必要に応じて随時情報交換をすることで、地域包括支援センター、民生委員、ボランティア等が利用者の情報を共有し、必要な対応を早期に行っている。

成果

「まさのや」は、町の中心部にあることに加え、施設を多目的に活用することで、地域住民が気軽に集まる場所となっている。この「まさのや」が地域住民にとっての居場所となったことで、地域住民が抱える多様なニーズを把握する場となり、見守りや生活支援の仕組みの構築につながった。また、地域住民が主体的に参加することで住民の意識が高まり、お互いに見守り支え合うまちづくりの推進につながっている。

また、平成27年4月に他の社会福祉法人経営の養護老人ホーム内に「2号店」となる集いの場を開所できたことも大きな成果と言える。

課題

「まさのや」の取組は、地域住民相互の助け合いと地域資源を活用したインフォーマルな取組として、日中見守りが必要な高齢者の居場所や世代間交流、ボランティア活動の拠点として、重要な役割を果たしている。

しかし、地域の中には、高齢者の短期宿泊や介護保険サービス利用日以外の受け皿、障害者の共同生活、生活困窮者の中間的就労施設などといった様々な課題があり、多様な地域ニーズが存在している。

こうした課題に対し、今後も「まさのや」のような地域拠点を活用しながら、どのような地域ニーズにも対応できる柔軟な姿勢で取り組み、地域住民が主体となって進める事業を展開していきたいと考えている。

代表者、事業者等の声

この事業が定着してきたのも住民の皆さまの協力によるものであり感謝しています。地域住民をはじめ、ボランティアの方が主体的に運営に関わっていただいていることで、持続性のある地域福祉の取組になっていると思います。

また、この事業が町内各所に広がりつつあることを嬉しく思います。



その他

この取組は、社会福祉法人(社協)自らの事業収益を運営費に充当しており、また、社会福祉法人(社協)の職員による福祉人材確保のための研修会開催など、地域貢献活動に積極的に取り組んでいる。

